

第5章 高齢者の地域組織への参加

— 京都府美山町集落調査報告 —

早稲田大学 高田 知和

1 はじめに

過疎化した農山村で元気な高齢者たちが地域社会維持にどのように貢献しているのかということを考えるにあたって、美山町の事例は非常に興味深いデータを提供してくれている。というのは、一般に地域社会への貢献は何らかの地域組織への参加を通じて行なわれることが多いが、美山町でも町づくりと高齢者の地域組織への積極的な参加との接点がよく見て取れるからである。

今回の美山町調査では、既に見てきたように「北」「田歌」の2集落が対象とされた。両者はいずれも旧知井村に属しており、したがって双方ともに知井振興会に含まれ、現に同会の会長は田歌集落から、副会長が北集落から選ばれている。

「高齢者の地域組織への参加」に関係する限りで両者の特徴をいえば、北集落は従来より保存されてきた萱葺き屋根の住宅群が平成5年に重要伝統的建造物群保存地区（「伝建」）に指定されたことを契機にして、地元民のほぼ全員が出資して有限会社を立ち上げて「かやぶきの里」として観光事業化した。いわば萱葺き屋根の住宅が群を成して存在している集落それ自体を観光地化したのであった。その結果平成14年度には年間の観光客が20万人を数えるに到っている。観光客らは集落の人びとが現在でも普通に居住している萱葺き屋根の住宅を見てまわるので、北集落の人びとは常に自分自身が見られてもいるわけである。また同地区では継承者を失った萱葺き屋根住宅に移り住む新住民も少なからず見られることも特徴の1つであるが、しかし新住民の多さの点では田歌集落の方が甚だしく、現に今回の調査対象世帯も田歌集落は4割が新住民であった。そのため、第1表に見られるように、田歌集落は北集落よりも新住民の若年層が多い分だけ子どもの数が多く、また高齢者が少なくなっている。

しかしながら結論を先んじていえば、今回の調査に見る限り、元気な高齢者が地域組織へ参加しているのは圧倒的に北集落の方が多い。確かに第1表においても、現時点で北集落の方が子どもの数が少ないことなど、今後考えなければならない問題点は数多い。だが北集落では、地元住民の出資で「かやぶきの里」を作ったことによってあらゆる住民が何らかのかたちでそれに関与して地域社会維持に関わって生活するようになっており、それを裏付けるように高齢者の活動が目に見えるかたちで活発になっている。むろん自家の庭の中に観光客が入って来て座って弁当を食べている状況を目のあたりにすれば、住民の誰しものが否応なく地域社会のあり方に関心を持たざるを得ないであろう。他方田歌集落では高齢者の地域組織への参加という点では数字に見ることが出来なかった。両者に違いが見られるのは、1つには住宅の密集度合いにも依っている。田歌集落は各戸が離れて存在し

第1表 調査対象世帯員構成・年齢別・性別

(単位:人, %)

	-20	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-	不明	合計
北・女性		0	6	3	3	14	10	3	0		
北・男性		1	5	4	4	10	11	0	0		
北・小計	16 17.0	1 1.1	11 11.7	7 7.4	7 7.4	24 25.5	21 22.3	3 3.2	0 0.0	4 4.3	94 100.0
田歌・女性		1	6	2	4	5	9	2	3	0	
田歌・男性		1	6	3	3	4	6	1	0	0	
田歌・小計	17 23.3	2 2.7	12 16.4	5 6.8	7 9.6	9 12.3	15 20.5	3 4.1	3 4.1	0 0.0	73 100.0
合計	33 19.8	3 1.8	23 13.8	12 7.2	14 8.4	33 19.8	36 21.6	6 3.6	3 1.8	4 2.4	167 100.0

注: 20歳未満は単に「孫」「子ども」と書かれている者が多いので性別は略した。そのため合計欄も性別は略した。北地区の「不明」の4人(2世帯)は調査票に年齢が書かれてないので分からない。

ているが、北集落は狭い地域に集落が固まっているからである。しかしそうした経緯はあるにしても、北集落には「かやぶきの里」という住民の共通関心があり、それを維持していくためにどうするかを考えていく過程で必然的に凝集力が高まっているのではないかとと思われる。他方で北・田歌の両地区は、若年層の地域組織への参加という点では非常に似通ったものを持っている。では具体的にどこが共通しており、どの点が異なっているのか。以下では調査データを基にして両者を比較するかたちで、地域における社会組織活動の担い手としての高齢者のあり方を考えていこう。

2 調査票に見る「地域組織への参加」

今回の調査では、「地域とのかかわり」として、①世帯員の誰かが現在参加している地域組織や団体があるかどうか、②同じく就いている役職にはどんなものがあるのか、③スポーツ・文化・趣味サークルやボランティア団体に参加している世帯員がいるかどうかを聞いた。したがって、直接の調査対象世帯は北集落 35 戸、田歌集落 25 戸であるが、「地域とのかかわり」が聞かれる対象者は世帯員全員ということになる。このうち本章では高齢者との比較という意味からも 64 歳以下の成人も対象にして考えていく。但し、田歌集落の調査票のなかには「60 代」と答えられているために当該世帯員の年齢を「65 歳以上」なのか「64 歳以下」なのか特定し難いものが含まれているので、厳密な意味で「65 歳」を境に出来ないものがあることをお断りしておきたい。

(1) 世帯員が参加している地域組織や団体

ここではあらかじめ調査員が被調査者に対して「PTA、地域婦人会、農協婦人部、老人クラブ、青年団、子供会、消防団、農事組合、生協、交通安全協会」といった例を示したうえで「世帯員の誰かが現在参加している地域組織や団体があるかどうか」を質問した。

第2表 年齢別、集落別の地域組織参加者数

(単位：人，(％))

	北・参加	北・不参加	北・小計	田歌・参加	田歌・不参加	田歌・小計	参加	不参加	合計
60 歳以上	35 (73)	13 (27)	48 (100)	15 (50)	15 (50)	30 (100)	50 (64)	28 (36)	78 (100)
20-59 歳	26 (100)	0 (0)	26 (100)	22 (85)	4 (15)	26 (100)	48 (92)	4 (8)	52 (100)
合計	61 (82)	13 (18)	74 (100)	37 (66)	19 (34)	56 (100)	98 (75)	32 (25)	130 (100)

注(1) この他に北集落には年齢欄に未記入2世帯4人がある。

(2) 田歌集落のなかには「65 歳以上」と「65 歳未満」を区別しがたいものがあるので、ここでは全体の参加者・不参加者を見るために「60 歳以上」で統一した。

その結果を年齢別・地区別に見たのが第2表である。ここからいえることは、北・田歌両集落ともに若年層の地域組織参加が非常に多いこと、高齢層は全体では約3分の2が何らかの組織や団体に参加していると答えていること、特に北集落の参加者の多さが目立っていることである。このうち若年層の参加が多いのは後述のように女性では婦人会とPTA、男性では消防団とPTAが圧倒的に多いからであり、高齢層に目立つのは老人クラブである。これを高齢層に限定して集落別・性別に見たのが第3表である。

一見して明らかなように、北集落と田歌集落の高齢者の参加状況は違っている。すなわち、北集落では何らかの組織に入っていると答えた者が65歳以上で「合計」で、60歳以上でも72.9%見出される（60-64歳はまだ現役で働いていることが多いので地域組織参加で低い）。特に男性の65歳以上では入っていない人は18人中2人に過ぎない。女性でも7割以上が入っている。また表には示していないが、その過半は70歳代が占めており、80歳代

第3表 何らかの組織に入っている高齢者

(単位：人，％)

	何らかの組織に入っている	何らかの組織に入っていない	合計
北・女性	17 (15) 63.0 (72.7)	10 (6) 37.1 (27.3)	27 (21) 100.0 (100.0)
北・男性	18 (16) 85.7 (88.9)	3 (2) 14.3 (11.1)	21 (18) 100.0 (100.0)
小計	35 (31) 72.9 (79.5)	13 (8) 27.1 (20.5)	48 (39) 100.0 (100.0)
田歌・女性	6 31.6	13 68.4	19 100.0
田歌・男性	9 81.8	2 18.2	11 100.0
小計	15 50.0	15 50.0	30 100.0
合計	50 64.1	28 35.9	78 100.0

注：北地区のカッコのなかには「65 歳以上」。

田歌地区の調査票のなかには「65 歳以上」と「65 歳未満」を区別し難いものがあるので、田歌地区は「60 歳以上」で表記した。全体の合計も「60 歳以上」のみ。

も1人いる。他方、田歌集落では、調査票の性格上65歳以上は分からないが、60歳以上で見れば、何らかの組織に入っている者は50%しか居ない。つまりちょうど半数でしかない。

特に著しいのは女性で、入っている者は31.6%に過ぎず、逆に3分の2は入っていないことになる。北集落の女性が7割以上入っているのに比べれば大きな違いがあるといわざるを得ない。ただ男性に関しては同じ高水準である。また年齢別では、田歌も70歳代の参加者が多く見られ、この点でも違いはない。結局大きな違いは田歌の女性の参加の低さに依るものといってよい。

それでは、具体的にどのような組織に高齢者たちは入っているのでしょうか。その前に比較の意味で若年層を見ておくと、若年層では地区に関係なく前述のようにPTA、婦人会と消防団が圧倒的に多い(第4表参照)。このうちPTAは若年の新規住民が多い田歌が北集落よりも少なくなっているが、これは未就学の児童を抱える世帯がいるためでもある。また生協に加入している女性も多く、若年層においては両地区に大きな違いは見られない。

違いがあるのは高齢層である(第5表参照)。すぐに分かるのは、北集落では女性・男性を問わず、老人クラブに入っている者が多いことである。何らかの組織・団体に参加している34人の65歳以上層のうち、21人が老人クラブに入っている。現にわれわれが平成15年12月に調査に行った前日にも、調査対象世帯以外の高齢者も含めて老人クラブ員が25名公民館に集まって料理教室を開いていたという。

これに対して田歌集落の老人クラブ(老人会)の参加者は非常に低く、僅か2名にとどまっている。これには第1表にあるように田歌の方が全体的に高齢層が少ないこと、にもかかわらず80歳以上が多く、90歳以上も見られること、また集落が固まってないこと、さらに「多く居る新規住民たちに感化されて元気な高齢者が多いので老人クラブに入会し

第4表 20-59歳が「参加している」と答えた組織・団体

(単位:人)

	地域の基礎的集団	農事組合	婦人会	消防団	農協(婦人部)	PTA	老人クラブ	生協	その他
北女性			6		1	7		4	4
北男性	6	3		6	4	6			2
小計	6	3	6	6	5	13	0	4	6
田歌女性			10	0	1	5		3	
田歌男性	1	5		6	1	5			1
小計	1	5	10	6	2	10	0	3	1
合計	7	8	16	12	7	23	0	7	7

注(1) 人数は延べである。

- (2) 「婦人会」は、北・田歌両地区ともに、厳密には二種類あるが、ここでは両者を合計した数字を掲げた。すなわち、旧知井村地区の下部組織としての婦人会と、旧知井村地区とは関係ない集落内独自の婦人会である。後者は、旧村単位の下部組織となると煩雑なので脱会する者が多く見られたので別個に作られたものである。
- (3) 「PTA」は世帯単位で入っていると考えられるが、ほとんどの人が妻・夫の双方が入っていると答えているので、そのままとした。但し、夫のみが加入と答えているものがあるが、統一させるためにその場合は妻も別個に入っているとカウントした。

第5表 高齢者が「参加している」と答えた組織・団体

(単位:人)

	地域の基 礎的集団	農事組合	婦人会	消防団	農協(婦 人部)	PTA	老人クラ ブ	生協	その他
北女性		1	3 (1)		5 (1)		11	1	
北男性	6	9			3		10		2
小計	6	10	3 (1)	0	8 (1)	0	21	1	2
田歌女性		0	2		4				
田歌男性	4 (3)	3 (1)			5		2		
小計	4 (3)	3 (1)	2	0	9	0	2	0	0
合計	10 (3)	13 (1)	5 (1)	0	17 (1)	0	23	1	2

注(1) カッコの前が65歳以上。カッコの中は60-64歳。

(2) 人数は延べである。

(3) 「婦人会」については表◇と同じ。

(4) 北地区では「かやぶきの里保存会」に参加していると答えた高齢者が複数いるが、北地区の世帯はほとんど保存会には入っているため、上表では除外した。もし入れるとしたら当然「地域の基礎的集団」に入る。

たがらない人が多いこと」(田歌在住の知井地域振興会長談)などが考えられようが、今ひとつ、北集落のように「かやぶきの里」の一員であるという統合の契機が無いことも理由の1つとして考えられよう。

老人クラブの他に高齢層が多く参加しているのは、男性ではJ A、農事組合、地域の基礎的集団であり、この点では北も田歌も同じである。これらは、例えば農事組合でいえば転作割当、肥薬幹旋、水路管理等をするものであるため世帯単位で入るものであるから、世帯主たる男性が入っているものである。したがって女性単身世帯の場合には、世帯主である女性が入っている。

また女性では北・田歌両集落ともに農協婦人部と婦人会が目立っている。特に婦人会は、旧知井村から成る知井地区の「知井婦人会」の下部組織として動く婦人会があるものの、それとは別に集落独自の女性の集まりとしての地域婦人会がある。これは下部組織の婦人会ではいろいろな拘束や義務があり、会長ともなれば他集落にわざわざ出向いて行く必要も生じるために煩わしいと婦人会を辞める者が多く出たために集落内単位で別個に作られたものである。構成メンバーはかなり重複しているが問題はない。調査票調査からは数名単位しか「入っている」と答えられてないが、北集落では集落独自の婦人会に若年層・高齢層を問わず20名余りが入っていて、毎月1回井戸端会議的なことを開いているとも言われている。

以上の他に特徴を1つ述べると、北集落ではこれまでも触れてきた有限会社「かやぶきの里」を中核とした地域組織が幾つも有り、高齢者でそれに関わっている人の多いことが挙げられる。

まず「かやぶきの里保存会」がある。これは集落内のほとんどの世帯が入っているもので、当然世帯主の高齢男性が入っていることになる(第5表には入れてない)。景観の保全、屋根葺きをどうするかなど、地区の基本的な寄合といってもいい。同様に茅葺きを維持し

ていくための「茅組合」。これも茅屋根保有者 38 棟 20 世帯が加入しているから世帯主が参加していることになる。これらはいずれも集落維持に参画していく組織であるといっていよい。またこれは北・田歌両地区にいえることだが、美山町附近では山林所有が個人所有、区の所有、苗（姓）の所有の 3 つからなっているので、旧住民は皆、区有林財産管理組合と苗の管理組合にも参加していることになり、当然世帯主が入っている（田歌在住の知井地域振興会長によれば田歌では区有林の組合には新住民も入っているという）。

以上のように、美山町では性差・年齢差に合わせるかたちでいろいろな組織に参加しており、なかでも北集落では老人クラブの参加者が非常に多いだけでなく、集落内の組織にも多数参加していることを見て取ることができた。

(2) 世帯員が現在就いている役職

次に、「世帯員が現在就いている役職」について聞いた。ここでも、あらかじめ調査員が被調査者に対して「振興会役員、氏子総代、檀家総代、民生委員、共有林組合役員、公民館長、農協理事、町会議員など」といった例示を示したうえで、世帯員のなかで現在就いている役職について質問した。その意味で答えがそうした例示に多少なりとも拘束されている面があるのは止むを得ない。

比較参考として若年層の動向も第 6 表に示したが、役職に就いていると答えた者は非常に少なく、性差・地区差も特にない（地域の基礎的集団への役職が若干多い）。高齢層を見たのが第 7 表である。ここでも 65 歳以上に限定すると田歌に比べて北集落の方が役職に就いている者の数が多い。これは前述の「かやぶきの里」のことを考えれば半ば当然で、それだけ準備されている役職の数が多いのである。調査票で答えられた具体的な役職名でいえば、「保存会会長」「保存会副会長」「保存会建築委員」「茅組合副組合長」など、いずれも北集落独自の組織なのであるから集落内で役職者が出て来るのは当然のことである。第 7 表の注にもあるように、田歌集落では実質的には男性 3 人、女性 1 人しか役職に就いていると答えてない。

第 6 表 20-59 歳が「就いている」と答えた役職

(単位：人)

	地域の基礎的集団	農事組合	婦人会	消防団	農協（婦人部）	PTA	老人クラブ	生協	その他
北女性									
北男性	3								1
小計	3	0	0	0	0	0	0	0	1
田歌女性	2					2			
田歌男性	2			1		1			
小計	4	0	0	1	0	3	0	0	0
合計	7	0	0	1	0	3	0	0	1

注(1) 人数は延べである。

(2) 「婦人会」については表◇と同じ。

第7表 高齢者が「就いている」と答えた役職

(単位：人)

	地域の基 礎的集団	農事組合	婦人会	消防団	農協(婦 人部)	PTA	老人クラ ブ	生協	その他
北女性	2		2				1		1
北男性	5 (4)	1	0				1		4
小計	7 (4)	1	2	0	0	0	2	0	5
田歌女性	0	0	1						
田歌男性	2 (5)	1							(1)
小計	2 (5)	1	1	0	0	0	0	0	(1)
合計	9 (9)	2	3	0	0	0	2	0	5 (1)

注(1) カッコの前が65歳以上。カッコの中は60-64歳。ここでは田歌地区の役職者の年齢はすべて分かるので田歌でも65歳以上と60-64歳を分けている。

(2) 人数は延べである。

(3) 「婦人会」については表◇と同じ。

(4) 田歌地区で役職に就いている者は一見多く見えるが、3人の男性が3つずつ答えているので実際には男性3人、女性1人しか答えてない。

しかしながら、調査の性格上、実際にはこれよりも遥かに多くの人びとが役職に就いている可能性は大いにある。調査員から「何か役職に就いていますか」と突然聞かれてとっさに十分な答えが帰ってくるとはやや想定し難いからである。

その点を考慮するとしても、「かやぶきの里」を抱えている北集落には必要上多くの役職が既に準備されている点は認識していい。そして実際に多くの高齢者がその役職に就いており、さらに調査時に「現在こういう役職に就いている」との返答が出来るほど彼ら彼女らの意識が高まっているといえることができる。

例えば、北集落のある女性(60歳代後半)で「地域の基礎的集団」の役職に就いていると答えている人がいる。彼女は「かやぶきの里」の取締役になっている。彼女の語るところによれば、「社長、副社長など6人ほどが集まって毎月2回以上は会議を開く」ということであり、平成15年に開催された「保存地区十周年記念行事実行委員会」の委員も務めている。「年がいても責任のある仕事がある」という語り口には地域への取り組みという点で非常に高い意識を感じさせている。

この点から考えてみれば、地域振興ということからみても役職に就いている者の量的な多さは大いに評価してよいと考えられよう。

(3) 世帯員が参加しているスポーツ・文化・趣味サークル、ボランティア

調査票では、世帯員が参加しているスポーツ・文化・趣味サークルやボランティアについても聞いている。調査結果によれば、若年層にはスポーツや趣味に関わる者が多いが、高齢層にはこうした活動をする者はあまり見られず、居るとしてもボランティア活動をする者が若干多い程度である。地区別・性別でも特に有意な結果は見られなかったので表にはしていないが、1つだけ指摘できるのは参加組織にせよ役職にせよ集落内部のものが多かったが、スポーツ・文化・趣味サークルやボランティア活動の点では、その参集範囲も活

動拠点も集落を超えるものが多いことである。多くは美山町単位のものであり、町外に出て行くものもしばしば見られた。したがって逆にいえば機動力の弱くなっている高齢者はそうした活動に参加しにくくなっているということになる。

3 「かやぶきの里」と高齢者

これまで、北集落の「かやぶきの里」のことが幾度も出て来たが、北集落の最大の特徴は観光地化という地域作りの枠組みが既に作られてしまっていることであり、集落内の老若男女のすべての意識がここに集まっていることである。それは前にも述べたように、自家の敷地内に観光客が入って来ているのであるから意識せざるを得ないのでもあるが、同時にこれが出来たことによって年齢に関係なく「働く場所」が出来たために、多かれ少なかれほとんどの人がこれに関わるようになったためでもある。とりわけ女性に活動の場が開かれたことが大きい。また高齢者でもパートタイムで携わることができる。有限会社「かやぶきの里」は平成14年4月に集落内のほぼ全員が出資して立ち上げられたものであるが、それ以前から「北村きび工房」での手作り餅・団子の製造販売、「お食事処きたむら」での厨房、「体験民宿またべ」における炊事、「美山民俗資料館」での事務仕事などは始められており、それによって非常に多くの仕事が女性にもたらされた。もちろんそうした事業の運営等は各世帯主である男性高齢者が大きく関与しているし、同じく男性高齢者のなかには観光客に対してボランティアで「集落ガイド」をしている者も多い。

このように見てくれば、高齢者の地域組織参加という点でも、「かやぶきの里」事業は無視し得ないものになっている。

それを示す1例として、第8表を作った。これは北集落の女性のなかで「かやぶきの里」関連事業でパートをしている」と答えた女性の数である。調査票のなかには面接調査を拒否したものも含まれているので、パートをしている女性の数は、実際には表よりも多くなっていることは間違いない。ただこの表からだけでも、多くの女性が常勤も含めて「かやぶきの里」で働いていることが分かる。先ほどの女性取締役の「責任の仕事がある」という述懐は決して誇張ではないのである。また、これについては第9表の被調査者らの自由回答にあるように、「かやぶきの里」という仕掛けが作られたことによってとりわけ女性高齢者が活動する地域組織が非常に多く出現したということができよう。

むろん他方では、このように高齢者が活躍する分だけ、パートタイム従業員が高齢化して技術の継承が難しくなるという問題点も抱え込んでいる。しかし、高齢者層を多く取り込んでいる「かやぶきの里」の存在意義は非常に大きい。田歌集落の女性高齢者の地域組織への参加が少ないのも、このような装置があらかじめ作られてないからではないかと思われるものである。

第8表 北地区の女性のうち、「かやぶきの里関連でパートをしている」と答えた女性 (単位: 人)

	65 歳以上	60 歳以上	40 歳以上	30 歳以上
「パートしている」	11	17	21 (内, 常勤 1)	23 (内, 常勤 1)
「パートしていない」	11	10	16	23
合計	22	27	36 (内, 常勤 1)	46 (内, 常勤 1)

注: 北地区の調査対象者のうち, 20 歳代の女性はいなかった。

第9表 高齢女性が働く「かやぶきの里関連」の自由回答

「伝建指定になってからどの家も女性が働きに出ようになり, 百姓仕事などで男性は忙しくなってヒマがない。」 (男性・70 歳代)
「伝建に指定されてから女性は若い人から 70 位のひとまでみんな何かの役割 (例えば資料館, 民宿, もちや, 食事処) ができて忙しくなり, 昔のようなお茶のみなどはなくなった。」(男性・60 歳代)
「資料館は元気になれる場所。しんどくても, 行くと忘れる。」(女性・70 歳代)

4 農業従事と高齢者の地域組織参加の関係

今ひとつ, 農業従事状況と高齢者の地域組織参加の関係についても一言触れておきたい。

今回の美山町調査対象世帯のなかに, 64 歳以下での専業農家はいない。専業農家と呼べるのはいずれも 65 歳以上の高齢専業世帯のみである。また 1 戸あたりの経営面積も非常に少なく, 農地を所有していても実際には 10 a 経営していないのが約 3 分の 2 ある。したがって生業として農業を営む世帯はなく, 野菜を市場に出荷する者もほとんどない。大半は自家用か, もしくは「かやぶきの里」の販売所や関連施設に出すかしているに過ぎない。

ただ, 第 10 表からも分かるように, 高齢者の地域組織参加を考える際には, その世帯が「農家」であるか否かには無視できない違いが認められる。すなわち, 北・田歌両集落ともに「農家」の方が参加度は高い。「非農家」の方が参加していない人が多い。

その場合, 新住民で「非農家」である若年層が地域組織への参加が低くなっているのではなく, むしろ高齢層の「非農家」の方が参加者は低くなっている。個々の調査票を見ていけば地域組織へ参加していない人にはそれぞれ固有の事情があるが, この場合考えられるのは, 第 10 表では農家/非農家を経営面積 10 a だけで機械的に区分してしまった。そのため高齢化が進んだ単身世帯もしくは夫婦のみ世帯でもはや農地を所有はしていても 10 a 経営するだけの余力がなくなってしまうたり農地を売ってしまったたりした世帯が「非農家」で地域組織への参加もしていないと数字で表われているのではないか。もちろん 70 歳代の女性が 90 歳代の母親と暮して未だに 10 a 耕している世帯もある。

しかし, そうでない世帯もある。それは一概には言い切れないので, 数値上「非農家」とカウントされてしまった高齢世帯の世帯員がもはや地域組織への参加もしていない場合が, 「非農家」の地域組織への「参加なし」を押し上げているものであろう。それはまた, 新住民で同じく「非農家」であっても若年層ならば既に述べたように, P T A, 消防団, 婦人会への参加が認められるだろうからである。

第10表 農業の状況と地域組織・団体への参加

(単位：人)

	専業農家 (皆高齢)	兼業農家	非農家	合計
北・65・参加あり	9	7	15	31
北・65・参加なし	0	1	7	8
小計	9	8	22	39
北・64・参加あり	0	11	20	31
北・64・参加なし	0	1	4	5
小計	0	12	24	36
田歌・60・参加あり	7	6	2	15
田歌・60・参加なし	5	4	6	15
小計	12	10	8	30
田歌・60・参加あり	0	11	11	22
田歌・60・参加なし	0	1	3	4
小計	0	12	14	26

注(1)経営面積規模で「農家」を出して、さらに就業で専兼を分けた。

(2)「北地区」の64歳以下層で地域組織・団体への「参加なし」に5人おり、表2の数値と若干違うので混乱する。第2表では「田歌地区」との関係性を連続的に見るために「60歳以上」「59歳以下」で切っているが、本表では「65歳以上」「64歳以下」で切っている。表2の数値と本表の数値が違うのはこのためである。この差は、「北地区」では60-64歳の5人が地域組織・団体にまったく参加してないことから生じたものである。

このように、農業の状況と地域組織・団体への参加との関係は、農業を営めなくなった高齢層が地域組織へも参加していないという文脈で捉えることができると思われる。

また、60歳代前半で「非農家」で地域組織への参加がない人のなかには、やはり農地を所有していても、他の仕事をしていて農業経営をしていないために「非農家」にカウントされている者もある。彼らの場合には、まだ老人クラブに入るだけの年齢に達していないこともあり、地域のなかでの組織参加が見られないのである。

5 むすび

以上で見てきたように、美山町における2地区においては、高齢者の地域組織参加について主に老人クラブへの参加度と役職に就いている者の数という点で非常に大きな違いがあることが分かった。それ以外の点は両地域の間にはさほどの違いを見出すことができないのである。これは要するに、既にたびたび述べてきたように、「かやぶきの里」という装置が備え付けられている北集落と、そうでない田歌集落の違いであると考えられる。現に北集落に新規住民として移り住んで来たある男性は、調査時に「ここは本当に会議などが多いところだと思う。忙しい」と感想を述べている。このことからしても地域社会維持への関心が他地区に比べて高いということがいえるだろう。そしてそれは、地域作りのために「年がいても責任のある仕事がある」という状況が高齢者の励みにもなっていると考えられるのである。